

令和4年度コミュニティリーダー研修会を開催しました！

主催：盛岡市、盛岡市町内会連合会、玉山地域自治会連絡協議会、“世界につながるまち盛岡”市民会議

2月4日（土）、中央公民館など5公民館を会場に、コミュニティリーダー研修会を開催し、町内会・自治会の役員など37名が参加しました。今年度は、事例発表の部を1月13日（金）から3月31日（金）まで市公式YouTubeにて動画配信し、当日は講演及び情報交換会を会場で行いました。

ここでは、事例発表及び講演の主な内容を紹介いたします。



【中央公民館】

講演

演題：担い手不足解消へ～地域組織の負担軽減&IT活用のヒント～



講師
合同会社フォーティR&C
代表 水津 陽子さん

○加入率低下、担い手不足の背景には、地域組織の会長や役員との認識と、住民ニーズ・ライフスタイルの変化の差があります。その差が、閉鎖的・排他的・硬直的な組織を生み、認知度・魅力度の低下を招き、負担感・抵抗感を与えています。

○担い手不足の対応策として、①運営の在り方を見直し、役員の負担を減らすこと、②役割に応じた報酬制を取り入れること、③会費・役割の免除や減免制度を検討するなど各種制度の見直しが挙げられます。



【西部公民館】

○現在では60代以上の高齢者の就業率が高く、女性も8割が働いています。気軽に参加しやすい雰囲気づくりや顔の見える関係づくりに取り組み、女性、若手・学生、現役世代、外国人など様々な人材を取り込んでいく必要があります。

○インターネットの普及が進み、スマートフォンを大多数の人が所有する時代になりました。インターネット環境のない人にも配慮しつつ、IT活用の方向へ進めていくことも重要です。

○ITを活用する際には、①目的を明確に、②無理しない・無理強いしない、③行動に移し、継続することを大原則とします。そして、①現状把握（利用意向、人材の有無）→②推進体制（協力メンバーの募集）→③活用プラン（進め方）→④情報発信→⑤実行と検証（試行し、振り返る）の順に進めていくことが効果的です。

○会への加入や参加を一律に求めるのではなく、関われる部分から参加してもらい、次世代へと繋いでいきましょう。

令和4年度「宝くじの助成金」で備品を整備しました！

（一財）自治総合センターは、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上を図るため、宝くじの社会貢献広報事業として、コミュニティ活動備品の整備やコミュニティセンターの建設等に対するコミュニティ助成事業を行っています。

令和4年度は、市内の4団体（盛岡駅前北通町内会、滝の下町内会、下川原町内会及び庄ヶ畑町内会）がコミュニティ助成事業の採択を受け、活動に必要な備品を整備しました。



■令和6年度実施分は、5年9月に市を通して募集を行う予定です。申請を検討される団体は、あらかじめ必要な備品を確認するなど準備を進めていただくことをお勧めします。

■令和5年度の実施要項等、事業の詳細については、団体のホームページをご覧ください。

一般財団法人 自治総合センター | 宝くじの社会貢献広報事業 | コミュニティ助成事業

<https://www.jichi-sogo.jp/lottery/community>



■同事業は、岩手県が市を通じて募集する「元気なコミュニティ特選団体」の認定を受けると、県の審査において、優遇されることが公表されています。「コミュニティ助成事業」及び「元気なコミュニティ特選団体」の詳細は、市民協働推進課 協働推進係（☎626-7535）へお問い合わせください。

事例発表

※ 発表者の役職は2月時点のものです。

発表団体1: 青山地区まちづくり協議会



青山地区まちづくり協議会は、平成24年に「青山地区地域協働推進計画」を策定し、「人の“わ”でみんな元気なまち青山」をスローガンに活動しています。会員として登録されているのは、町内会、自治会、商店会、小中学校PTA、保育園、企業など42団体です。

4月の「青山さくらまつり」、6月の「赤レンガまつり」、夏は会として「盛岡さんさ踊り」へ

発表者: 事務局長 秋篠 京子さん

の参加、秋には「青山こどもフェスティバル」を開催するなど、年間を通して様々な活動を行っています。新型コロナウイルス感染症の拡大により、ここ数年は一部事業を中止していますが、「認知症声かけ保護訓練」と「青山地区防災訓練」は、休まず継続することができています。各事業は、地域の小中学校や施設・企業など様々な団体と協力し、多くのボランティアに加わってもらいながら実施しています。

発表団体2: 緑が丘一丁目北区町内会



令和2年、これまで様々な業務を担っていた役員が空席となり、町内会の危機は突然やって来ました。そもそも町内会は必要なのか？という疑問から始まり、組織の在り方や事業の目的、執行体制について改めて考えました。

各部の役割を再確認し、役員はみんなで広く浅くやると決めました。役員間ではグループメールを開始し、いつからか回覧となっていた会報を、

発表者: 会長 藤原 徳雄さん、広報係 菅原 由紀さん

毎月各戸配布に戻しました。会報は、町内会が何をしているか、誰がやっているか分かるように、タイムリーなお知らせを心がけています。行事はその都度振り返りを行い改善点を確認し、次年度の計画に生かすこととしています。

現在は、コミュニケーションを増やしたいということ課題とし、①暮らしやすく楽しい町内であること、②防災教育活動は大事、③日頃から声をかけられる緩い関係性づくりを目標に、活動しています。

発表団体3: 盛岡市男女共同参画推進室



市は、「性別等にかかわらず、誰もがお互いの人権を尊重し、一人一人の個性と能力を十分に発揮できる社会」を目指しています。多様な人が能力を発揮することで、組織には今までと違った考え方・視点や、工夫が生まれ、多様な住民のニーズに対応することができるという効果が期待されます。変化が激しい時代に、持続可能な組織の運営

発表者: 主任 小玉 諒さん、主事 岩間 海さん

をしていくためには、多様な人が多様な形で活躍できる環境を整えていくことが必要です。

ある町内会では、女性や子育て世帯を取り込むため、役員の仕事内容を分かりやすくする、簡単な手伝いのみをお願いし参加へのハードルを下げるといった取組を行った事例があります。家庭状況や考え方はそれぞれ異なることを前提に、家庭や仕事といった個人の生活基盤を第一に考え、互いに尊重しあうことが大切です。